

科目名	キリスト教倫理特論
科目責任者	永井英司
単位数他	2単位（30時間） 選択 春
科目の位置付	(1)「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる。
科目概要	聖書の教える倫理思想の講義が中心になります。 全15回の講義ですが、前半は旧約聖書モーセ五書の倫理思想を学びます。 後半は、新約聖書のイエス・キリストの倫理思想、パウロの倫理思想の講義になります。 講義は直接聖書を読みながら解説を加えて進みます。
到達目標	聖書の中にあるキリスト教倫理思想の根底に流れているものを習得する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 聖書について 第2回：聖書の世界観について ヘレニズムとヘブライズム 第3回：創世記第1章～3章から 神（創造主）と人間（被造物） 第4回：創世記第1章～3章から 罪と死 十戒（出エジプト20：1～ 申命記5：1～） 第5回：医学的な問題、「血と命」に関する律法の記述について レビ記17：10～ 申命記12：23～ 第6回：福祉的な問題、人間の罪、弱さなどに関する律法の記述について レビ記19：11～ （箴言28：21） 第7回：人を愛する レビ記19：18～ ルツ記2：1～ 第8回：ヨベルの年について レビ記25：1～ 第9回：見ない振りをしてはならない 申命記10：17～ 15：7～ 第10回：イエス・キリストについて 聖隷学園の礎 ヨハネ13：1～15洗足のイエス 第11回：イエス・キリストの教え 「最も重要な掟」マルコ12：28～34 第12回：タリオの法について 「目には目、歯には歯」 出エジプト記21：24～25 第13回：姦通の女について 「あなたを罪に定めない」ヨハネによる福音書8：1～11 第14回：パウロについて 「目からうろこのようなものが落ち」使徒言行録9：1～19 22：1～21 第15回：まとめ 律法から福音へ 「律法全体は隣人愛の一句によって全うされる」ガラテヤ5：21

学修方法	講義形式を主にして進めます。
評価方法	レポート提出（100％）によって評価します。
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーへの対応は、授業の中で行います。
指定図書	『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行
参考書	『キリスト教倫理入門』小田島嘉久 ヨルダン社
事前・事後学修	聖書の通読 キリスト教関連の文献や辞書の活用
オフィスアワー	研究室はキリスト教センター内にあります。 時間等については初回の授業で説明します。

科目名	保健医療倫理学特論	
科目責任者	森 一恵	
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋	
科目の位置付	(1)「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる。	
科目概要	保健医療福祉における生命倫理の概念を理解するとともに倫理的問題解決技法等を身につけることを通して倫理的判断能力および倫理的調整能力を修得する。	
到達目標	1. 生命倫理の概念を保健医療福祉の観点から具体的に理解することができる。 2. 倫理上の基本原則、倫理綱領、患者の権利を理解し、これらに含まれる基本的概念を具体化できる。 3. 保健医療福祉の実践および研究における倫理的問題・葛藤について問題解決技法等を活用して倫理的判断、倫理的調整を導くことができる。	
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>	
	第 1 回：生命倫理の基本的考え方、倫理的問題・葛藤と責務	小島操子
	第 2 回：倫理的判断のよりどころ（倫理上の基本原則、倫理綱領他）	小島操子
	第 3 回：倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例①）	森 一恵
	第 4 回：倫理的意思決定のプロセスと倫理的調整の検討（事例②）	森 一恵
	<第 5～15 回：倫理的問題に関わる基本的な概念と事例の検討>	
	第 5 回：（1）インフォームド・コンセント	森 一恵
	第 6 回：（2）アドボカシー	森 一恵
	第 7 回：（3）Quality of life	森 一恵
	第 8 回：（4）プライバシー	森 一恵
	第 9 回：遺伝子治療／移植医療等高度先進医療に伴う倫理的課題 （1）脳死・臓器移植	ゲストスピーカー
	第 10 回：遺伝子治療／移植医療等高度先進医療に伴う倫理的課題 （2）出生前診断	ゲストスピーカー
	第 11 回：人を対象とする研究における倫理（1）研究倫理	大石ふみ子
	第 12 回：人を対象とする研究における倫理（2）人権の保護	大石ふみ子
	第 13 回：保健・医療従事者の倫理ディレンマ	宮前珠子
	第 14 回：事例に関する倫理ディレンマの検討	宮前珠子
	第 15 回：倫理原則と職能団体の倫理綱領	宮前珠子

学修方法	講義、演習およびテーマにそった学生のプレゼンテーションを元に討議形式ですすめます。日々の実践で遭遇する倫理上の問題を取り上げ、倫理の基礎知識をもとにした倫理的判断の方法を学修します。感性を研ぎ澄まして日頃の実践をふりかえり、クラスで討議する事例を持って参加し、講義後は学修内容を振り返る。
評価方法	1. 授業資料の準備とプレゼンテーション、討議への参加状況 60% 2. 提出物、課題レポート 40%
課題に対するフィードバック	1. 授業資料の準備は予め担当教員に相談し、課題のフィードバックをプレゼンテーション前に行う。 2. 討議の内容についてはクラス中に課題が明確になるようファシリテートする。
指定図書	1. 砂屋敷忠他編『医療・保健専門職の倫理テキスト』2000、医療科学社 2. ケースで学ぶ医療福祉の倫理 [編集] 菊井和子、大林雅之、山口三重子、斎藤信也 医学書院
参考書	1. Jonsen・A・R 他、赤林朗他訳『臨床倫理学』2006、新興医学出版社 2. トンプソン・J・E 他、ケイコ・イマイ・キシ他監訳『看護倫理のための意思決定 10 のステップ』2004、日本看護協会出版会
事前学修・課題等	これまでの倫理に関わる学修を振り返り、各課題において自分なりの「倫理」「倫理観」「倫理上の問題」に関する考えや、クラスで討議する事例を持ってクラスに臨んでください。また、日々の実践で遭遇する倫理上の問題を取り上げ、倫理の基礎知識をもとにした倫理的判断の方法についてクラス後に反復して考える。感性を研ぎ澄まして日頃の実践を振り返る。(事前・事後学修約 40 分)
オフィスアワー	臨地看護学実習などの予定により変更の可能性があるため、事前にメールで予定の確認を取ってください。 森：1217 研究室、水曜日 12:00～13:00 kazue-m@seirei.ac.jp

科目名	ヘルスプロモーション健康政策特論
科目責任者	石井敏弘
単位数他	2単位（30時間） 選択 春 （隔年に開講です。2017年度に開講されません）
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	最初に、20世紀後半以降における健康政策の変遷、ヘルスプロモーション、健康都市について講義します。次いでケースメソッドによる演習で、ヘルスプロモーションや健康政策に関わる具体的理解を深めます。 ケースメソッドによる演習では、ヘルスプロモーションや健康政策の観点から実在する問題を受講者が提示して、その具体的な解決方を検討します。問題の捉え方、問題の整理方法、問題を解決する能力を学修することを目的とします。
到達目標	* 健康政策の変遷、ヘルスプロモーション、健康都市について説明できる。 * 保健医療福祉の現場において問題を適正に捉え、分析、評価できる。 * 前記の問題を解決するための現実的最良の方策を具体的に提示できる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 健康政策の変遷 第3回 ヘルスプロモーションの誕生と発展 第4回 健康都市 第5回 ケースメソッドに関するガイダンス 第6回～第7回 ケースメソッド 個人演習 第8回～第10回 ケースメソッド 班演習 第11回～第15回 ケースメソッド 全体演習 第1～5回はインプット中心、第6～15回はアウトプット中心の内容です。 最適な履修登録者数は6名以上です。上記の授業計画は履修者数6名以上の場合です（履修者数が5名以下の場合、授業計画は変更されます）。 医療、保健、福祉に関わる実情（現場の状況、政策、研究など）に対して問題意識をもっている方、（考えた結果ではなく）考える‘すべ’について学習したい方にとって価値ある授業です。そうでない方にとっては、つまらない授業です。

学修方法	第1回～第5回は講義、第6回～第7回は個人学習、第8回～第10回はグループワーク、第11回～第15回は討論です。第1日（第1～5回）、第2日（第6～10回）、第3日（第11～15回）の3日に分けて8月～9月に実施します。遠隔授業の実施はございません。
評価方法	授業における成果 100%（発表 30%、質問に対する回答 40%、演習の解答 30%）
課題に対するフィードバック	発表、質問に対する回答 40%、演習の解答に対してコメントします。
指定図書	なし
参考書	世界保健機関ホームページのヘルスプロモーションに関するサイトなどが参考になります。 (http://www.who.int/healthpromotion/en/ など)
事前・事後学修	事前学修： 第1～5回は不要です。第6～15回は目安の時間が各回約 60 分（30～90 分）です。 事後学修： 前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望めます。各人の必要に応じて学修してください。目安の時間は各回約 60 分（30～90 分）です。
オフィスアワー	看護学研究科所属。1615 研究室 時間については初回授業時に提示します。

科目名	保健医療経済政策特論																		
科目責任者	石井敏弘																		
単位数他	2単位（30時間） 選択 春 （隔年に開講です。2018年度に開講されません）																		
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。																		
科目概要	「経済学」とは（個人の資産運用や、お金儲けを考える学問ではなく）国家もしくは社会全体の運営について扱う学問であり、この科目では「医療経済学」（保健医療の経済学）を学修します。 「医療経済学」は「経済学」の中の1分野なので、授業は近代経済学の要諦を説明することから始まり、医療という特殊な市場における経済的なモデル（原理）について体系的に解説します。また、保健医療従事者の関心事である政策や診療報酬、さらには近年普及してきたガイドラインやクリティカル・パスに用いられる診療行為の費用対効果分析などについても教授します。 本科目を学修することは、保健医療において金銭、人、物資、情報技術等の“資源をいかに効率よく配分して、よりよい厚生を生むか”という問題を解決（および研究）するための一助となる筈です。																		
到達目標	* 経済学の考え方、方法について説明できる。 * 保健医療経済学の概要（枠組み）について説明できる。 * 医療技術を経済学的に評価する方法について説明できる。 * 医療の制度、政策を経済学的に評価して説明できる。																		
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ <table border="0"> <tr> <td>第1回 ガイダンス、医療経済的考え方</td><td>第2回 経済学の準備</td></tr> <tr> <td>第3回 医療サービスの需要</td><td>第4回 保険の経済理論</td></tr> <tr> <td>第5回 医療需要の実証分析</td><td>第6回 医療サービス生産とその計量分析</td></tr> <tr> <td>第7回 医療スタッフの労働市場</td><td></td></tr> <tr> <td>第8回 誘発需要と情報の非対称性</td><td>第9回 医療における価格・計画、競争・規制</td></tr> <tr> <td>第10回 生活習慣と行動変容</td><td>第11回 医療技術の進歩と伝播</td></tr> <tr> <td>第12回 所得分配と健康</td><td>第13回 年齢による医療・介護リスクとケア</td></tr> <tr> <td>第14回 医療費の範囲と「国民医療費」</td><td></td></tr> <tr> <td>第15回 効果測定</td><td></td></tr> </table>	第1回 ガイダンス、医療経済的考え方	第2回 経済学の準備	第3回 医療サービスの需要	第4回 保険の経済理論	第5回 医療需要の実証分析	第6回 医療サービス生産とその計量分析	第7回 医療スタッフの労働市場		第8回 誘発需要と情報の非対称性	第9回 医療における価格・計画、競争・規制	第10回 生活習慣と行動変容	第11回 医療技術の進歩と伝播	第12回 所得分配と健康	第13回 年齢による医療・介護リスクとケア	第14回 医療費の範囲と「国民医療費」		第15回 効果測定	
第1回 ガイダンス、医療経済的考え方	第2回 経済学の準備																		
第3回 医療サービスの需要	第4回 保険の経済理論																		
第5回 医療需要の実証分析	第6回 医療サービス生産とその計量分析																		
第7回 医療スタッフの労働市場																			
第8回 誘発需要と情報の非対称性	第9回 医療における価格・計画、競争・規制																		
第10回 生活習慣と行動変容	第11回 医療技術の進歩と伝播																		
第12回 所得分配と健康	第13回 年齢による医療・介護リスクとケア																		
第14回 医療費の範囲と「国民医療費」																			
第15回 効果測定																			

学修方法	事前学修（指定図書）に関する質疑応答、およびこれを踏まえた課題について演習します。遠隔授業の実施はございません。
評価方法	筆記による効果測定 100%
課題に対するフィードバック	事前学修に関する質問に回答、説明します。課題の演習で学生の解答にコメントし、解答例を提示します。
指定図書	橋本英樹、他 編. 医療経済学講義 補訂版. 東京大学出版会. 2016
参考書	西村周三、他 編. 講座 医療経済・政策学 全6巻. 勁草書房
事前・事後学修	対象は初学者です。経済学に関する予備知識は不要です。 数式の使用は多くございませんが、それでも中等学校で学修する数学の理解を前提とします（これについては自習してください）。また微分、積分の理解（計算スキルではありません）が必要な内容があります。 事前学修は指定図書の自己学習です（標準的な時間は2時間～3時間）。 前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて事後学修してください。
オフィスアワー	看護学研究科所属。1615 研究室 時間については初回授業時に提示します。

科目名	臨床疫学特論 -EBM 実践入門-		
科目責任者	石井敏弘		
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋 (隔年に開講です。2017 年度に開講されません)		
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。		
科目概要	E BM (Evidence Based Medicine 科学的根拠に基づく医療) とは「入手可能な範囲で最も信頼できる根拠 (質の高いエビデンス) を把握したうえで、理に適った医療を行うこと、あるいはこれを行うための一連の行動指針」です。この一連の過程を遂行するためには、データベースへアクセスして目的とする文献を効率よく探し出す能力 (コンピュータリテラシー)、文献を吟味できる能力 (臨床疫学、生物統計学の知識) が必須です。 これらのうち、この科目では臨床疫学を中心に学修します。臨床疫学は「疫学的手法を応用して、医師の診療行為や検査・治療法などの有効性と効率性を評価する学問」(Sackett D. L., et al.) と定義されており、今般では臨床医師は言うに及ばずコメディカル、保健、福祉などの分野においても注目されています。臨床疫学を学修するとは、患者ケアの根拠が如何にして創られ評価されるのかを体系的に学ぶことであり、これの基本的事項は研究者にとっても先ず修得する必要がある事柄です。		
到達目標	医療あるいは医学研究において、つぎの課題を科学的根拠に基づいて判断、意思決定できる。 * 診断用検査の正確さを査定する * 疾病の罹患要因を究明する * 治療の有効性を評価する * 疾病の頻度を測定する * 疾病の予後を予知する * 疾病の原因を特定する		
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回 オリエンテーション、序論 第3回 異常 第5回 リスク2ー疾病への曝露 第7回 予後 第9回 治療 第11回 偶然性 第13回 エビデンスの要約 第15回 効果測定、まとめ </td><td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第2回 頻度 第4回 リスク1ー基本原理 第6回 リスク3ー疾病から曝露へ 第8回 診断 第10回 予防 第12回 原因 第14回 知識管理 </td></tr> </table> 最適な履修登録者数は3名以上です。シラバスの記載は履修者数3名以上の場合です (履修者数が2名以下の場合、一部変更されます)。	第1回 オリエンテーション、序論 第3回 異常 第5回 リスク2ー疾病への曝露 第7回 予後 第9回 治療 第11回 偶然性 第13回 エビデンスの要約 第15回 効果測定、まとめ	第2回 頻度 第4回 リスク1ー基本原理 第6回 リスク3ー疾病から曝露へ 第8回 診断 第10回 予防 第12回 原因 第14回 知識管理
第1回 オリエンテーション、序論 第3回 異常 第5回 リスク2ー疾病への曝露 第7回 予後 第9回 治療 第11回 偶然性 第13回 エビデンスの要約 第15回 効果測定、まとめ	第2回 頻度 第4回 リスク1ー基本原理 第6回 リスク3ー疾病から曝露へ 第8回 診断 第10回 予防 第12回 原因 第14回 知識管理		

学修方法	第1回～第14回の各回は講義と演習の組み合わせで、学生による発表が課されます。第15回は問題の解答が課されます。 遠隔授業の実施はございません。
評価方法	授業における成果 100% （発表 30%、質問に対する回答 40%、問題の解答 30%）
課題に対するフィードバック	事前学修の課題（宿題）、授業中の演習問題に係る解答例を提示し、解説します。
指定図書	福井次矢 訳. 臨床疫学 EBM実践のための必須知識 第3版. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 2016
参考書	Miquel Porta 編. 日本疫学会 訳. 疫学辞典 第5版. 日本公衆衛生協会. 2010 柳川洋 編. 疫学マニュアル 第7版. 南山堂. 2012
事前・事後学修	中等学校・数学に関わる学力を備えていることが受講の要件です（これについては授業で教授しません）。加えて、高等学校・数学の「確率・統計」、大学・学部レベルの「統計学」「疫学」に関わる学力を備えていれば、授業の理解に大いに役立つでしょう（初学者でも支障ありません）。 事前学修は指定図書の自己学習です（標準的な学力を備えた学生では約2～3時間です）。前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて事後学修してください。
オフィスアワー	看護学研究科所属。1615 研究室 時間については初回授業時に提示します。

科目名	実験的研究法
科目責任者	矢倉千昭
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春semester
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	実験的研究法の具体的な展開方法を理解するとともに、研究論文のクリティーク方法を学修する。
到達目標	1. 実験的研究方法を学び、修士研究の計画を立てることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回：オリエンテーション 矢倉千昭 第2回：実験研究のすすめ方1：総論 矢倉千昭 第3回：実験研究のすすめ方2：文献レビュー 吉本好延 第4回：実験研究のすすめ方3：文献レビュー 吉本好延 ※文献レビューでは、受講者に興味ある分野における論文の文献抄読（英語論文）を行ってもらい、研究方法などについて批判的に討論することで、実験研究方法について学ぶ。 第5－8回：研究デザインと統計分析（集中講義） 對馬栄輝 第9回：実験研究の検証方法と結果の読み取り 根地嶋誠 筋電図を用いて実験方法と結果の読み取りについて学ぶ 第10回：実験的研究法の実際その1 金原一宏 光トポグラフィーの測定方法の手順について学ぶ 第11回：実験的研究法の実際その2 金原一宏 脳活動の測定方法の手順について学ぶ 第12回：実験的研究法の実際その3 伊藤信寿 発達領域におけるデータ収集と分析について～1～ 第13回：実験的研究法の実際その4 伊藤信寿 発達領域におけるデータ収集と分析について～2～ 第14回：実験的研究法の実際その5 大原重洋 小児から発達データを収集する手順について学ぶ 第15回：実験的研究法の実際その6 谷 哲夫 発話に関連するデータの収集と分析について学ぶ ※第10回から15回は、実験的研究における信頼性、妥当性の測定方法について学ぶ。

学修方法	講義、課題発表とグループ討議、実習などの授業が行われます。
評価方法	授業態度（20%）、プレゼンテーション（40%）、課題レポート（40%）
課題に対するフィードバック	課題発表後、グループ討議したのち、教員よりフィードバックします。
指定図書	『SPSS で学ぶ医療系データ解析』對馬栄輝著、東京図書、2007
参考書	適宜紹介する
事前・事後学修	実験的研究についての課題、また文献抄読の課題、発表の準備が必要です。
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 時間：月曜日と金曜日の3時限目（11時55分～13時15分） 場所：3504 研究室（矢倉研究室） 上記以外でもメール（chiaki-y@seirei.ac.jp）で遠慮なくアポイントを取ってください

科目名	社会調査特論
科目責任者	志村 健一
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	社会調査やヒューマンサービスにおける研究は、ある問題意識のもとに設定された仮説を検証するために、情報を収集し、それを認識論的枠組みにそって分析解釈することにとどまらず、問題意識から幅広く情報を収集し、一定の法則にしたがってそこから理論や仮説を産出することも重要な知的活動であろう。社会調査特論ではヒューマンサービスにおける社会調査の枠組みと方法について学ぶ。
到達目標	1. 大学院での研究する意味を説明できる。 2. 代表的な研究方法について類別できる。 3. 修士研究のための道筋を説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：講義についてのガイダンス 受講者アセスメント（研究の方向性と今の位置） 課題図書紹介（研究法に関する新書） 第 2 回：実践における調査の位置づけ 課題図書の概要と大学院生としてのかかわり 資料提示 “How we obtain our knowledge base?” 第 3 回：知識獲得の方法 第 4 回：調査・研究の位置づけ 第 5 回：研究の諸方法 研究のための倫理的問題・課題 第 6 回：研究のプロセス 研究計画作成への第一歩 資料提示 “Purposeful sampling” 第 7 回：定量的データを収集するサンプリングの諸方法 第 8 回：定性的データを収集するサンプリングの諸方法 第 9 回：質問紙法によるデータ収集 第 10 回：定量的データの分析 統計的検定をやってみよう 第 11 回：フィールドノーツ作成演習（その 1） 参与観察をやってみよう 第 12 回：フィールドノーツ作成演習（その 2） 聴き取りをやってみよう 第 13 回：データ分析の方法（KJ 法による演習） 第 14 回：データ分析の方法（グラウンデッド・セオリー概論） 第 15 回：事例検討とフィードバック

学修方法	講義で基礎的な知識を提供し、実際にその知識を調査活動をシミュレートしながら演習する。 大学院時代の時間の早さは多くの教員が実体験として共有しているものでしょう。働きながらの学びは決して容易ではありませんが、修士論文の最初の三章の骨子を書きあげるようなつもりで履修してください。
評価方法	レポート 100%
課題に対するフィードバック	最終回で各院生の報告に対しフィードバックする。
指定図書	『ソーシャルワーク・リサーチの方法』志村健一（2004）、相川書房
参考書	進捗に応じて紹介する。
事前・事後学修	配布された資料を院生同士で解説し合う授業となる回は、責任持って出席すること。 また、演習に参加することで課題に取り組めるようになるため演習にも積極的に参加すること。 各授業の後は資料とテキストをすり合わせておくこと。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	現代リハビリテーション学特論
科目責任者	吉本好延
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	現代リハビリテーション医学（医療）のトピックスを学び、研究課題や臨床への応用を検討する
到達目標	1. 現在のリハビリテーション医療のトピックスを学び、また自らも積極的に学習に参加して、得られた知識を修士研究に活用することができる 2. 日頃の臨床とも関連付けて臨床応用を検討し、自らの臨床を豊かにすることができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名> 第1回：リハビリテーション医療における最近のトピックス 吉本好延 第2回：嚥下障害患者におけるリハビリテーションの評価 藤島一郎 第3回：嚥下障害患者におけるリハビリテーションの最近の治療 藤島一郎 第4回：高次脳機能障害患者におけるリハビリテーションの評価 片桐伯真 第5回：高次脳機能障害患者におけるリハビリテーションの最近の治療 片桐伯真 第6回：脊髄損傷患者におけるリハビリテーションの最近の評価と治療 美津島隆 第7回：疼痛患者におけるリハビリテーションの評価 金原一宏 第8回：疼痛患者におけるリハビリテーションの最近の治療 金原一宏 第9回：発達障害患者におけるリハビリテーションの評価 伊藤信寿 第10回：発達障害患者におけるリハビリテーションの最近の治療 伊藤信寿 第11回：腰痛患者におけるリハビリテーションの評価 根地嶋誠 第12回：腰痛患者におけるリハビリテーションの最近の治療 根地嶋誠 第13回：認知症患者におけるリハビリテーションの評価 佐藤順子 第14回：認知症患者におけるリハビリテーションの最近の治療 佐藤順子 第15回：まとめ 吉本好延

学修方法	授業では講義とディスカッションをもとに進めますので、各授業テーマについて事前学習を行い積極的な授業参加をお願いします。
評価方法	課題への取り組みと発表（50%）、ディスカッションへの参加状況（50%）
課題に対するフィードバック	課題提出後メールや授業、面談などで随時行います
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	時間割を参照して、各授業におけるテーマを事前に学習し、授業に参加してください。
オフィスアワー	所属：リハビリテーション科学研究科 場所：3509 研究室 時間：毎週水曜日 17 時～18 時

科目名	人体構造・機能学特論																																
科目責任者	顧 寿智																																
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋																																
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。																																
科目概要	医療現場経験を持つ専門家による特別講義および浜松医科大学での実習見学などをおして、臨床に役立つ人体構造・機能学について学習する。幅広い関連知識、方法を修得する。																																
到達目標	1. 人体の正常な構造・機能を理解する。 2. 人体の構造・機能に基づき病態を理解する。 3. 病気の回復と人体構造・機能の関連性を理解する。 4. 人体の構造・機能について、自分の研究の基礎を築く。 5. 解剖実習では知識の確認だけでなく、生命倫理の基礎をつくることができる。																																
授業計画	<table border="0"> <thead> <tr> <th>＜授業内容・テーマ等＞</th><th>＜担当教員名＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 回：オリエンテーション、細胞生物学・発生学概論</td><td>顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 2 回：神経系の構造・機能・てんかん</td><td>榎日出夫 顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 3 回：呼吸器の構造・機能・病態</td><td>丹羽宏 顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 4 回：泌尿器の構造・機能・病態</td><td>三橋孝 顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 5 回：聴覚平衡感覚器の構造・機能・病態</td><td>石崎久義 顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 6 回：神経系の構造・機能・脳性麻痺</td><td>岡西徹 顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 7 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ</td><td>顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 8 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ</td><td>顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 9 回：浜松医科大学での実習見学</td><td>顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 10 回：浜松医科大学での実習見学</td><td>顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 11 回：浜松医科大学での実習見学</td><td>顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 12 回：動物実験</td><td>顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 13 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ</td><td>顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 14 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ</td><td>顧寿智</td></tr> <tr> <td>第 15 回：抗加齢医学の基礎</td><td>石井敏弘</td></tr> </tbody> </table>	＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞	第 1 回：オリエンテーション、細胞生物学・発生学概論	顧寿智	第 2 回：神経系の構造・機能・てんかん	榎日出夫 顧寿智	第 3 回：呼吸器の構造・機能・病態	丹羽宏 顧寿智	第 4 回：泌尿器の構造・機能・病態	三橋孝 顧寿智	第 5 回：聴覚平衡感覚器の構造・機能・病態	石崎久義 顧寿智	第 6 回：神経系の構造・機能・脳性麻痺	岡西徹 顧寿智	第 7 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ	顧寿智	第 8 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ	顧寿智	第 9 回：浜松医科大学での実習見学	顧寿智	第 10 回：浜松医科大学での実習見学	顧寿智	第 11 回：浜松医科大学での実習見学	顧寿智	第 12 回：動物実験	顧寿智	第 13 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ	顧寿智	第 14 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ	顧寿智	第 15 回：抗加齢医学の基礎	石井敏弘
＜授業内容・テーマ等＞	＜担当教員名＞																																
第 1 回：オリエンテーション、細胞生物学・発生学概論	顧寿智																																
第 2 回：神経系の構造・機能・てんかん	榎日出夫 顧寿智																																
第 3 回：呼吸器の構造・機能・病態	丹羽宏 顧寿智																																
第 4 回：泌尿器の構造・機能・病態	三橋孝 顧寿智																																
第 5 回：聴覚平衡感覚器の構造・機能・病態	石崎久義 顧寿智																																
第 6 回：神経系の構造・機能・脳性麻痺	岡西徹 顧寿智																																
第 7 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ	顧寿智																																
第 8 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ	顧寿智																																
第 9 回：浜松医科大学での実習見学	顧寿智																																
第 10 回：浜松医科大学での実習見学	顧寿智																																
第 11 回：浜松医科大学での実習見学	顧寿智																																
第 12 回：動物実験	顧寿智																																
第 13 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ	顧寿智																																
第 14 回：ディスカッションまたは履修生のニーズに応じるテーマ	顧寿智																																
第 15 回：抗加齢医学の基礎	石井敏弘																																
学修方法	講義、ディスカッション、発表など																																
評価方法	授業への参加態度、ディスカッション(80%)、その他(20%)を総合的に評価する。																																
課題に対するフィードバック	課題の解説、リアクションペーパーのコメント																																
指定図書	特になし																																
参考書	「The Essentials of Anatomy and Physiology」 10th Ed. Gerard J. Tortora, Bran Derrickson Visible Body (アプリ)																																

事前・ 事後学修	各テーマに関連する基礎知識を事前学修すること。講義内容、配布資料、課題などを参考し、事後学修して下さい。(1コマ当たり約40分以上)
オフィス アワー	所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12 時～13 時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール (juchi-k@seirei.ac.jp) か研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	心理学特論
科目責任者	坪井 裕子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	本講義は、対象の心理学的理解と心の援助のあり方について各自の臨床実践を心理学の視点から考察することを目的とする。具体的には、近年課題となっている子どもの臨床的問題の諸側面をテーマに取り上げる。それらの問題について、基本的な知識を習得し、様々な角度から理解を深めるとともに、子どもの心理療法などの支援について学ぶ。
到達目標	1. 子どもの臨床的問題についての基本的な知識を習得すること 2. 子どもの心理臨床実践に対する理解が深まること、 3. 子どもの支援に関わる際の基本的姿勢を習得すること を目標とする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 1. 子どもの臨床的問題 (1) イントロダクション 2. 子どもの臨床的問題 (2) 不登校 3. 子どもの臨床的問題 (3) いじめ 4. 子どもの臨床的問題 (4) 自殺 5. 子どもの虐待 (1) 現状と支援体制 6. 子どもの虐待 (2) アセスメント 7. 子どもの虐待 (3) 子どもの心身に及ぼす影響 8. 子どもの虐待 (4) 心理教育プログラム 9. 子どもへの支援 (1) 児童福祉施設における支援 10. 子どもへの支援 (2) 虐待を受けた子どものセラピーの特徴 11. 子どもへの支援 (3) 子どもの心理療法の諸問題 12. 事例検討…事例1 児童福祉施設における事例から 13. 事例検討…事例2 受講生① 14. 事例検討…事例3 受講生② 15. まとめ 本講義を通して将来の臨床実践における心の援助について各自が具体的に考える機会にしたいと思っています。したがって、積極的な姿勢で受講してくださることを期待しています。

学修方法	内容にそって、講義、グループワーク、合同事例検討会などによって進める予定。
評価方法	講義中の小レポートおよび受講態度 50%、最終レポート 50%
課題に対するフィードバック	講義中の小レポートについては、次の回でコメント等、フィードバックします。
指定図書	プリント配布予定。
参考書	安部計彦・加藤曜子・三上邦彦編著「ネグレクトされた子どもへの支援 理解と対応のハンドブック」明石書店
事前・事後学修	毎日の授業内容を復習（30分程度）しておくこと。事例検討については、事前の資料作成（かなりの時間を要すると思います）を課題とする予定。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	教育方法学特論
科目責任者	藤崎 和彦
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	1. 近年の医学教育改革の動向について理解し、近年医学教育で急速に導入されている PBL、OSCE、ロールプレイなどについて、演習を通して学習する。 2. 医療系教育における教育改革・生涯学習と多職種連携の取り組み。
到達目標	1. 受講者が近年の医学教育改革の動向について述べることができる。 2. 受講者が自分の担当するカリキュラムの計画作りができる。 3. 受講者が学習者中心の教育態度の重要性を理解する。 4. 受講者が医療専門職の育成に関する教育方法学を理解したうえで、多職種連携に関わる教育方法ならびに PBL 課題、OSCE の工程評価表が作成できる。 5. 受講者が学生及び新人に対する事例検討、臨床（実習）指導の基本技能を修得できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1-5 回：ワークショップ形式による演習 I 近年の医学教育改革の動向 カリキュラムプランニング I、PBL、ロールプレイ、skill lab などに 関する概要 第 6-10 回：ワークショップ形式による演習 II カリキュラムプランニング II、OSCE、模擬患者など 第 11-12 回：理学・作業療法学、看護学、社会福祉学領域における教育改革の取り組み 第 13-15 回：PBL、OSCE ならびに多職種連携による事例検討、臨床（実習）での教育方法 <担当教員名> 藤崎和彦 藤崎和彦 内山靖 内山靖

学修方法	藤崎) 講義、グループワーク、討論、発表を含むワークショップ形式で行います。 内山) 「講義」「グループワーク」「討議」「発表」
評価方法	授業参加、レポートなどにより、総合的に評価する (100%)。
課題に対するフィードバック	藤崎) 初回の講義後レポートに対するフィードバックを、次回講義時に行います。 内山) 当日講義中の演習課題・討議を後の講義時間で解説・フィードバックします。
指定図書	なし
参考書	(藤崎) 『医学教育マニュアル〈1〉医学教育の原理と進め方』日本医学教育学会教育開発委員会編 篠原出版新社 『医学教育ABC—学び方, 教え方』吉田一郎訳、篠原出版新社 『実践PBL チュートリアルガイド』吉田一郎、大西弘高編、南山堂 『基本的臨床技能の学び方・教え方』日本医学教育学会臨床能力教育ワーキンググループ編、南山堂 『医学医療教育用語辞典』日本医学教育学会医学医療教育用語辞典編集委員会編、照林社 『医療プロフェッショナル ワorkshopガイド』日本医学教育学会FD小委員会編、篠原出版新社 (内山) 『理学療法教育論』奈良勲編、医歯薬出版株式会社、2004 『基本的臨床技能の学び方・教え方』日本医学教育学会編、南山堂、2002
事前・事後学修	事後学習用の参考文献を示します。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	保健科学英語特論
科目責任者	園城寺 康子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(7) 学術的かつ国際的な視野をもち、グローバルな活躍をめざし、海外の専門家や学生と交流ができる。
科目概要	保健科学に関連する英語文献を読んで医療英語に慣れ、各自の専門分野の論文を読みながら医療系論文の概要と特徴を習得する。
到達目標	1. 英語の論理構造や特徴を日本語と比較しながら理解する。 2. 英語文献の基本的表現や用語に慣れる。 3. 医療系論文の概要と特徴を学び、専門分野の論文を読む。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 受講者の皆さんの研究内容を話し合うことから始めますので、提出できるよう日本語でまとめて来て下さい。 第 1 回：Guidance 第 2 回：Difference between English and Japanese 第 3 回：Difference between English and Japanese 第 4 回：Lecture on Medical Terms and Expressions 第 5 回：Lecture on Medical Terms and Expressions 第 6 回：Reading English Articles 第 7 回：Reading Exercise and Presentation 第 8 回：Outline of English Papers and APA 第 9 回：Reading Papers 第 10 回：Reading Papers 第 11 回：Reading Papers 第 12 回：Reading Papers 第 13 回：Writing Exercise 第 14 回：Writing Exercise 第 15 回：Summary

学修方法	講義と演習、小テスト
評価方法	授業参加活動 40%、提出物など 60%
課題に対するフィードバック	小テスト返却、論文読解発表へのコメント、英作文課題へのコメント
指定図書	<i>English for Medical Students</i> 神山省吾、他 著、南雲堂
参考書	『うまい英語で医学論文を書くコツ』植村研一著、メジカルビュー社 『看護論文を英語で書く』エリザベス M. トーンクイスト著、医学書院
事前・事後学修	<i>English for Medical Students</i> の小テストは、本文中心の英作と書き取りです。Chapter 1 を第 2 回目の講義時にテストするので、準備してきてください。また、英語辞書はいつも持参して下さい。英語論文読解に要する準備時間は受講者数や個人差があるので、かなり事前に決め準備できるようになっています。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	マネジメント論
科目責任者	武居 敏
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	福祉サービスの事業経営を中心に置きながら、非営利組織のマネジメントを理解し、マネジメントの実践への応用について学ぶ。
到達目標	マネジメントとは何かを学修する。 福祉サービスの事業経営を中心に、非営利組織のマネジメントを学修する。 マネジメントの理論を身につけ、その実践への応用力を習得する。
授業計画	事業内容・テーマ等 第 1 回：マネジメントの概要 科目の目標、総論、担当事例の検討と決定 講義・グループワーク 第 2 回：組織と経営、経営戦略 組織と経営の基礎的内容、経営戦略とは 講義 第 3 回：サービスマネジメント・リスクマネジメント① サービスマネジメントの基本 マーケティング、環境分析、サービスの評価、広報等 講義 第 4 回：サービスマネジメント・リスクマネジメント② サービスマネジメント・リスクマネジメントに関する事例研究 第 7 回：多職種連携 社会福祉、医療等の分野における多職種連携と地域共同の在り方 講義 第 5 回：セルフマネジメントとモチベーションマネジメント 個人と集団の行動、モチベーション理論 講義・グループワーク 第 6 回：コミュニケーション 個人と集団の行動におけるコミュニケーション 講義 第 8 回：メンバーシップ・リーダーシップ① リーダーシップに関する体験学習 グループワーク 第 9 回：メンバーシップ・リーダーシップ② メンバーシップ・リーダーシップの基礎理論 講義 第10回：人事管理・労務管理 ヒューマンリソースマネジメントの基礎、労働法と労務管理 講義 第11回：人材育成 福祉サービスにおけるキャリアパスと能力開発 講義・演習 第12回：財務管理① 財務管理の基礎、社会福祉会計と計算書類 講義 第13回：財務管理② 実際の計算書類を通して行う経営分析 事例研究 第14回：建物・機器管理、情報管理 経営資源(ハードを中心に)管理の基礎 講義 第 15 回：まとめ 担当事例を通して考える中期計画と将来展望 グループワーク

学修方法	講義、討議を中心にして、必要に応じてグループワークや施設長等の現任者との討議を行います。
評価方法	授業態度 50%。レポート 50%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント・返却時。課題に対するフィードバック方法はその都度講義の場面で提示します。
指定図書	「グロービスMBSマネジメント・ブック」グロービス経営大学院編著ダイヤモンド社 (現在では改訂3版だが、開講時の最新版)
参考書	講義の都度示します。
事前・事後学修	事前学習：前回の講義時に課題を提示し、次回講義時の討議、グループワークの資料とする。 事後学習：授業を振り返り、課題を整理する。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。